鏡池だより

第35号
平成30年
（2018年）
4月・5月
・6月号
発行：編集
岡崎別院
輪番　福田 大

人のわろき事は、能(よ)く能(よ)くみゆるなり。
わがみのわろき事は、おぼえざるものなり。
～蓮如上人御一代記聞書　一九五～

連日、テレビや新聞を賑やかせ、テレビに釘付けされた平昌五輪が閉会してはや、一月余りを経過しようとしている。

多くの選手のインタビューを見たが、その中で印象に残る言葉が耳に響いた。その選手は、スピードスケート女子五百メートルで金メダルに輝いた小平奈緒選手である。

インタビュアーが「多くの期待が集まっていますが、そのプレッシャーに押しつぶされるようなときはないですか？」との問いに対し小平選手は「自分の責任だと思えば失敗も成功も全部受け入れられるという覚悟ができているので、自分のためにスケートという競技を楽しめているというのが一番大きい。人のためならここで失敗したらどうしようと思うけど、ここで失敗しても私の人生だし、精一杯やればいいんだ、そう思ったら緊張しない」とコメントされ、ハッとさせられた。

他人を批判し、他人の悪口なら何時間でも話していられる私。こんな私だからこそ、逆に自分が他人から批判を受け、悪口を囁(ささや)かれているという恐怖心に苛(さいな)まれている。他人に批判を受けない、悪口を囁かれないように生きたい、とする自らの事実を、小平選手のコメントから言い当てられた。

他人の批判で一生涯を捧げることはあまりにも空しい。しかしながら、他人を批判している同じ目線で自らを批判することは、難中の難である。私には、自らを批判したり、他人から批判を受けてうなずけるほどの柔軟な心はない。あくまでも自分を是（正しい）として、他を非（まちがっている）という「自是他非(じぜたひ)」な頑(かたくな)さしか持ち合わせてない。しかも、「自是他非」を生き、極めて狭い視野の中でしか他と関われない。しかしながらその私の事実に悲しむ心が起こったならば、凡夫を自らの立脚地として、仏の教えとともに生きる歩みが始まるのではないか。

〈四月～六月の法座案内〉

花まつり・子ども会
○四月一日(日)十時～
午前十時～花まつり（勤行・法話）
終了後、書院に移動し焼きいも

宗祖を訪ねて
○五月三日(木)十四時～　輪番
○六月三日(日)十四時～　輪番

味読正信偈
○四月十三日(金)九時半～　輪番
○五月十三日(日)九時半～　輪番
○六月十三日(水)九時半～　輪番

歎異抄を読む
○四月二十三日(月)九時半～　列座
○六月二十三日(土)九時半～　列座

〈ご案内〉

山城第二組同朋の集い
○四月十日　バスツアー
東本願寺大門前集合

三日講聖蹟参拝旅行
○五月二十一日　＊詳細は別記

〈結婚式〉

二〇一七年
二月十八日
挙式
宇治真由香さん
九條　成紀さん

二〇一八年
二月二十五日
挙式
完　寿　さん
小林　敬　さん

二〇一八年結婚式予約状況
☆五月二十日　石原・中村家
☆六月十七日　稲倉・南部家
☆七月二十一日　某家
☆七月二十九日　三觜・加藤家
☆八月四日　井上・龍山家
☆八月二十六日　某家
☆十一月十七日　某家
出張結婚式
三月二十四日、十月六日
※詳細はホームページをご覧下さい
http://okazakibetsuin.com/wedding/

〈列座のつぶやき〉

年が明けてからすでに三か月が過ぎようとしています。一年の四分の一が過ぎようとしていますが、一月には車を擦り（修理済）、財布を無くし（後に発見）、二月には体調を崩し、と一年の嫌なことをすでに先回りして経験したような三か月でした。

どれも自分の不注意、不摂生から起こったものですが、必ず最初は「〇〇だったらならなかったのに（起きなかったのに）」と「〇〇」を他に押し付けようとしています。自分より不注意、不摂生な人を見ては「なんであの人は」と思うこともしばしばです。たとえ自分に原因を見たとしても、それを認めるのは難しく、受け入れたとしてもすぐに忘れてしまいます。

「わが身のわろきことはおぼえざるなり」といわれても「本当は悪くない」「悪くないと言ってほしい」自分を捨てきれない日々です。

（近藤）

宗史蹟親鸞聖人岡崎草庵跡
真宗大谷派（東本願寺）
岡崎別院
〒606-8335
京都市左京区岡崎天王町
26番地
電話・FAX 075-771-2921
http://okazakibetsuin.com
info@okazakibetsuin.com

【帰敬式（ききょうしき）とは
仏から我が名（法名）を賜る仏事なのです

「帰去来（いざいなん）、魔郷（まきょう）には停（とど）まるべからず」は、善導大師の『観経疏（かんぎょうしょ）』からの御言葉である。帰去来とは、「さあ、帰ろう」という我々への呼びかけである。それは同時に「魔郷」にいて「魔郷」とわからない私に対して叫ばれている叫び声である。自分が可愛い、ただそれだけに生き、どこまでもエゴを追求して生活している私の生活を「魔郷」というのではないか。

「魔郷」の現実は、自分の都合や思いの中で他を傷つけ、自らも傷つきながら、隣の人が何を願い、何に苦悩しているのかを知る由もない世界である。その世界の内実は、傍若無人（ぼうじゃくぶじん）として、もがき、苦しみ、伴なる人がない中で孤独を生きる私の生活そのものである。

その世界を生きる私に「さあ、帰ろう」という、帰すべき方向を示し、「人間よ、本当の人間になってください。あなたは今、本当にその生き方で満足ですか。あなたが本当にやりたかったことを今してますか」と、私を願っている仏の声を敬って聞き続け、帰すべきところと敬うべきことを生活のよりどころにしていく表明が、仏の声を聞き、名を賜る帰敬式であります。

当院では、帰敬式を受式される方のお声をお待ちしております。ご一報下さい。

当院での帰敬式

帰敬式受式を希望される方は
岡崎別院までご一報下さい。
ＴＥＬ・ＦＡＸ　075-771-2921
＊受式には別途願事礼金が必要です。
＊申込から受式まで最短で二週間程頂戴しております。

「仏前結婚式」とは
人生の節目を表明する大切な仏事です

昨今では、結婚式をチャペルや神社で挙げられる方が多い。中でも真宗の御門徒であっても、お寺で挙式される方があまりにも少ないのが現状である。

結婚とは、自分の都合や思いを叶えるための儀式ではない。釈尊は人間が生きていくことを「一切皆苦」と言い当てられた。その言葉どおり、生活をしていくということの具体性は、自分の思いや都合がことごとく破られ、壊される現場である。

仏前結婚式とは、苦労を共にしていく夫婦生活の中にあって、諸問題（悩み・苦悩）を親鸞聖人に聞いていく、こんなとき、親鸞さんならどのようにされるだろうか。またどのように言われているだろうかという聞法の生活を始めていくという表明式である。

当院では、各寺院において厳修される（寺族）仏前結婚式での司婚・司会の出張も承っております。（但し、京都教区 山城組内が対象）詳細は当院まで御一報ください。

当院での挙式

仏前結婚式を希望される方は
岡崎別院までご一報下さい。
ＴＥＬ・ＦＡＸ
075-771-2921
当院ホームページも併せてご覧下さい。
http://okazakibetsuin.com/

聖蹟参拝旅行のご案内

来たる五月二十一日に岡崎別院主催「聖跡参拝旅行」を行います。奈良方面への日帰りバスツアーです。

主な行程は

岡崎別院集合・出発
←
鴨川西Ｉ．Ｃ．～桂木Ｉ．Ｃ．
←
休憩の後、立興寺・願行寺参詣
←
奥吉野湯盛温泉、明日香
←
桂木Ｉ．Ｃ．～鴨川西Ｉ．Ｃ．
←
岡崎別院到着・解散

＊本年は例年と違い日帰り旅行となります。
＊三日講員、ご門徒各位は送付の書類をご確認下さい。

問い合わせ、申込は岡崎別院まで。多数のご参加、お待ちしております。

過去の聖蹟参拝旅行
（＊2017年、2015年）

お煤払い

十二月二十三日、岡崎別院本堂のお煤払いが行われた。一列に並んで竹の棒で畳を叩き、大団扇で一年間の埃を払った。

内陣の御厨子の屋根の掃除や、庫裏や書院、御殿の掃除機がけ、縁の拭き掃除なども行われた。約二十名が参加した。

終了後はホテル平安の森に移り、別院忘年会が開かれた。

本堂内のお煤払い

庫裏廊下の清掃

修正会

一月一日午前七時より、別院本堂にて修正会が厳修された。

本堂での勤行後、輪番による新年の挨拶と法話があった。

勤行後の法話

岡崎別院ご門徒新年会

一月三日、ご門徒新年会が行われた。

本堂での勤行・法話の後、書院へ移動し、京都風の雑煮、ぜんざいが作られ、職員、参詣者で頂いた。

書院での食事

三日講新年会

一月十三日、岡崎別院三日講の新年会が行われた。

本堂で通常の味読正信偈の法座の後、書院に移り、参加者で料理を頂いた。約二十名が参加された。

書院での新年会

おみがき

三月十日、春季彼岸会・永代経を控え、仏具磨きが行われた。

参加者全員で本堂におみがきを行い、終了後は書院に移動し、職員特製カレーを頂いた。

本堂でのおみがき